

2014年度開講科目

調査実習概要報告書

/

2015年4月15日

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	きむ みよんす 金 明秀		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	わたなべ つとむ 渡邊 勉	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習 I	KSGa-140701-0	11名	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生は調査設計から調査票作成にいたるすべての調査過程に主体的かつ積極的に参加した。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

エスニック・アイデンティティとナショナル・アイデンティティの関係について

2. 調査の内容/概要： 2014年9月に那覇市民を対象として、エスニック・アイデンティティ、ナショナル・アイデンティティ、コミュニティモラルの重層関係をテーマとしたサーベイを実施した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)： 那覇市の選挙人名簿に登録された20歳から69歳の市民を母集団とし、層化2段抽出で約600名を抽出。留置調査により実査を行った。有効回収数は75票であったため、2015年度に郵送法により追加調査を行う。

4. 主な調査項目：

投票行動、政党支持、ナショナル・アイデンティティ、エスニック・アイデンティティ、コミュニティモラル、排外主義、外国人との接触体験、伝統文化実践、社会的排除意識、家意識、権威主義、一般的信頼、移動意識、仮想的有能感、ライフステージ、社会的地位

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：

留置き調査

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2年計画のプロジェクトの1年目にあたる。実査は2014年9月に那覇市で行う。調査員は20人。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：

あまりにも回収率が低かった。本土から調査に行っても十分な回答は得られないと判断し、琉球大学教員と連名で2015年度に郵送調査を追加で実施することとした。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

授業の一環としては因子分析と回帰分析を主体として分析を行わせた。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

現在分析中。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2015年度に調査報告書を取りまとめる予定。

<記入上の注意点> 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を(「*/*」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3と)ご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通り)にして、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。